

経済崩壊・経済制裁の効果？

岩本友則

世界平和の維持、核兵器開発等の阻止のため、国連決議により幾つかの国に対し経済制裁がなされてきました。しかし、その対象国の対応を見ると、経済制裁の効果に疑問を抱く人が多いのではないのでしょうか？

今日の世界においては、新型肺炎の拡大阻止、封じ込めのため対策として外出自粛や都市封鎖等、過去の歴史から学んだ措置が取られています。もう一つの課題は、経済崩壊の防止です。

経済制裁下の状況は、経済崩壊に似ているかもしれません。私がイラクに滞在当時（1998年）、国連決議による経済制裁を受けていました。特にイラク経済に打撃を与えたのは、石油輸出により得た外貨の使用用途は、食料と医療に関する物のみに限定され、それを管理するための国連の専門組織がバクダッドに置かれていました。このため、イラクの人々の生活や経済状態は非常に困窮したものでした。

アラビアンナイトの故郷、子供達は良く働く

私がイラクに滞在した6月からの足掛け3か月、子供たちが学校に行く姿を一度も見ることがありませんでした。中学校と言われる施設に行ってみますと、教室はホコリまみれ、鶏の骨が散らかり、しばらく授業が行われた様子がありません。

子供達がいなわけではありません。多くの子供達を見かけます。そして、その子供達は、学校に行かないで働いているのです。イラクの子供たちは本当によく働いていました。小さな子（9才程度）は、ガムやティッシュを売り、もう少し大きくなると靴磨きやタバコを売る者、工場で働く者、頼みもしないのに路上駐車のを、勝手に行いチップを要求する者、高速道路でジュースを売る者、田舎に行けば、多くの子供たちが羊の番や家畜の世話をしています。



右の写真は、千年以上前の街並みが現存するバグダッドの一角です。日本で言うなれば平安時代の街並みです。ここは、骨董品店も多く、アラビアンナイトの故郷に思えるのは私だけでしょうか？ この歴史が詰まった街並みにも子供たちが働いています。左の写真の子供は、物乞いの子供です。物乞いをする子供は町のいたるところで見かけるのです。こうして子供達も、働き場のない親たちの助けと成り、生計を支えているのです。

ある母親は、私に対し、平和で、子供達に対して安心して十分な教育が出来る環境が欲しいと訴えるのです。

地に落ちた貨幣価値

当時、イラクで使われていた最も高価な紙幣は250ディナール（日本でいえば万円札）で、故フセイン大統領の肖像画が用いられたフセイン札です。



このフセイン札以外に、100ディナール札と50ディナール札がありましたが、硬貨は見あたりませんでした。

① ガソリン50リットルが1枚、②2リットルのミネラルウォーターが3枚、③250ccの缶コーラ1本が3枚必要です。④散髪

（理容店）は、紅茶付きで6枚です。

産油国イラクでは、ガソリン50リットルより水2リットルの方が3倍高いのです。

食事の後はまるで賭博場

フセイン札1枚で買えるものがそうありません。物を買うとき、値段を言うのではなく、何枚と言います。財布に入る札の枚数では、ほとんど買えるものはありません。食事に行こうものなら、フセイン札が20～30枚必要です。ですから、数人での食事の後の支払いは、札束が積み上げられ、まるで賭博場のようです。財布に入るお金では食事すら出来ません。ですからお金は、ウエストポーチとかショルダーバック等で持ち歩かなければ生活できません。



フセイン札で車を買おうとすると、いったい何枚必要なのだろうと考えてしまいま

す・・・1万枚？それでは足りません。10万枚以上必要です。高級車を買おうとすれば50万枚以上必要です。これでは、トラックに札束を積んで車を買に行かなければなりません。

アイスクリームを食べるのは命がけ

イラクに行って間もない頃、私はレストランでアイスクリームを食べていました。そこに遅れて来たある同僚が、私を怒るのです。アイスクリームなんか食べたら死ぬぞと言うのです。私は彼の言葉の意味がよく分からず確認すると、1年ほど前にアイスクリームを食べて死んだ国連職員がいたそうです。それは、イラクは暑い上に停電が頻繁に起こり、冷凍庫の中で腐り、その腐ったアイスクリームを食べたためだそうです。ですから私にもアイスクリームは、食べるなど言うのです。し

かし、イラクのアイスクリームは、暑さも手伝ってとても美味しいのです。しかも既に大半を食べ過ぎてしまわれても手遅れです。もし腐っていたら味が変わっているはず・・・などと思いを巡らし結局最後まで美味しく食べたのです。幸い、私は何事もありませんでした。その後も、イラク滞在中、死の恐怖と戦いつつアイスクリームを食べました。

有り余るエネルギー資源（石油）、しかし電気がない、医療崩壊も

水より安いガソリン、有り余る石油、しかし、頻繁に起こる停電、その理由は、火力発電所の機器故障に対する予備品の欠如から生じるものでした。

私はある時、イラクの病院に行きました。病気の治療で行ったものではありません。調査のために行きました。そこで見たのは、停電のため医療器具が使えない！救える命を救えないと嘆く医者の方でした。

私が、イラクに滞在したのは6月～8月で最も暑い時期です。気温も51℃～53℃、夜でも35℃を下りません。このような状態で電気がない状態を想像してみてください。クーラーが使えない、暑さで、夜も睡眠ができません。ある時、バグダッドの郊外に、草に覆われた多くに家を見つけました。草の意味を聞くと、草の葉は、丸みを帯び水分を長く保持できる草で、家の周りに置くと3～4日外気よりも4～5℃低く保つことができる天然のクーラーだと言うのです。自然エネルギーの活用です。

これは、停電時、熟睡するために蒸発潜熱を利用するヒントとなりました。

経済制裁は、効果的か？

私が見た経済制裁下のイラクの人達の生活は、非常に厳しく効果的と思えたのです。国の統制力や国民の忍耐力などの要因により経済制裁の効果の表れ方が異なるのでしょう。日本で実施されたら、多分、三日と持たないでしょう。

また、日本の近郊にある経済制裁されている国の現状は、もっと厳しい状況にあると推察します。

おわり